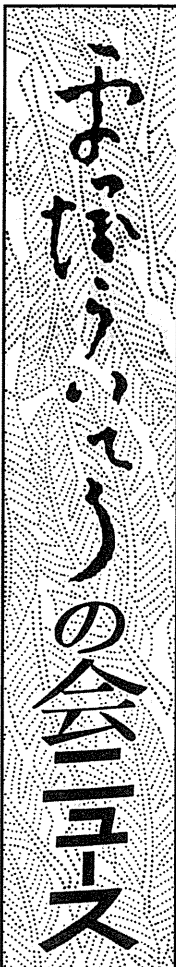


募金の熱意に応え、地域に根ざす「家」に

—らいてうの会第8回総会報告—



発行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

本会は去る4月14日、第8回総会を開催、オープンから一年経った「家」を中心とする活動報告とこれからの方向について議論しました。

建設募金は目標を超えて達成!

2004年2月から始まった建設募金は2007年3月で終了、決算いたしました。(概略は3面に掲載)。5000万円の目標に対し約5200万円

の募金をいただいて超過達成、さらに建築途中で業者への支払いのため、一時借入金をお願いしたところ800万円ものお申し出があり、これに「記念碑建設募金」の残金を合わせて、「奇跡」というほかありません。みなさまの熱いご協力で心から感謝いたします。

支出のほうは木材・建設業者をはじめ、関係者のほとんど赤字覚悟という献身的な協力により、予算はオーバーしましたが募金の範囲に収まり、開館後の運営経費も当初は募金で補填する予定でしたが、無償のボランティア活動と維持会費、入館者の方がたの維持費寄付でまかなうことができました。その結果、すべての支払いと借入金の

返済を済ませ、なお500万円以上の「家」基金積み立てが可能になったのです。この基金を活用してらいてうの「平和・協同・自然」へのねがいを広めたいと思います。ただ、これから「寄付者銘板(寄付者全員のお名前を刻み、掲示する)」の作成(今年度実施)、毎年「家」や庭のメンテナンス、備品充実などが予定され、出版事業なども考えると今後も積み立てが必要です。ひきつづき維持会員、維持募金をお願いできれば幸いです。

地域の中に生きる「家」を

さらにこの一年、地元会員のみなさんのご奮闘により、多くの方が「らいてうの家」を知ってくださいました。7月29日に開館一周年記念行事として辻井喬さんの講演会を上田で開催しますが、上田市からの助成金をはじめ、信濃毎日新聞等マスコミ各社の後援、さらに企業や団体・個人から名刺広告へのご協力などが相次ぎ、「らいてうの家」を応援して下さる方々の輪が大きく広がっています。東京圏からもバスツアーで参加します。県の助成金(今年は「元気づくり」支援金)も3年連続で認められ、ブナの植樹をしました。かつてらいてうが消費組合「我らの家」で地域から人々の「協同」を訴えたように、地域に根ざす「らいてうの家」にしたいと思えます。

こうした広い活動推進のため、定款を改めて理

事を増員(「15名まで」を「30名まで」に)、常任理事制をとって活動をすすめることにしました。なお、会長と「家」館長には引き続き米田佐代子(米田佐代子)が選任され、名誉館長も引き続き羽田澄子さんにお願いいたします。

サクソフォン奏者、中川美保さんが特別出演!

辻井講演会に、中川美保さんがボランティア出演され、翌日「家」でもミニコンサートをします。ここにもひとつ協同の輪ができました。

薬草園に「らいてうの家ハーブ園」出現!

5月21日、薬草園開きがおこなわれ、長野県から渡辺衛生部長はじめ多数出席。本会からも、米田、杉山、花岡が参加、席上「らいてうの会にハーブを育てる区画を貸して」と要望したところ、さっそく整地された一角に「らいてうの家管理」という立て札



で立ててくださいました。そこに地元会員がラベンダー、カモミール、ミントなどを植え、マリール、ミントなどかな彩りに。「家」の庭にもハーブを植えています。

薬草園の山桜花見祭りと植樹祭

150人の参加でにぎやかに開催

5月12日、らいてうの家に隣接する「薬草園」で花見祭りと、翌13日には、らいてうの森に地元「もくり」による植樹指導のもと、昨年につづき300本のブナの植樹がおこなわれました。

当日は、四阿山・根子岳を背景にあずまや高原にはピンク色の山桜も咲きはじめ、お天気も上々の花見日和。地元的女性たちによって、広い薬草園の木陰には野点のお茶の準備も整い、豚汁やおにぎり、おやきに山菜・薬草のてんぷら、採りたてのきのこや山菜、熊笹グッツやトンボ玉のお店などがにぎやかに並び、参加者をおおいに楽しませてくれました。



11時から第一回森のめぐみ講座―長瀬叶彦さん（長野県薬剤師会顧問、信濃生薬研究会顧問）による「菅平高原の薬用植物」のお話を聞き、その後、広い薬草園を案内していただきました。

お昼は、地元

の方たちの手作りの豚汁やおにぎり、山盛りのてんぷらに舌つづみ。ひろばでは「江戸前かつぱれ」の踊りもはじまって、祭りに来てくれた長野大学のゼミの学生たちも飛び入りで参加、楽しいひと時を過ごしました。

学生さんたちはこの後、米田佐代子館長から「らいてうと平和」と題したお話を熱心に聞いた後、山を降りていきました。

菅平高原と信濃の薬用植物 長瀬叶彦さんのお話(要旨)

菅平における薬草の栽培 嘉永4年(1851年)上田藩は、鎌原村の開墾願いを認可。町奉行他が実地調査し、薬草試作のため藩から250両を貸付け、町世話人8人も出資し栽培を始めたという伝統がある。そして安政2年(1855年)、薬草栽培成績として、甘草は痩せ地がよい、芍薬も良好、大黃は特に良好、人参は3年目で未定という結果。馬鈴薯は良好だが、運ぶのに運賃がかかるので澱粉にして出荷が良策との結果がでた。

昭和27年、東京都旧麹町区永田町の内山マツイ氏が、所有する小県郡長村十之原の原野(牧場)10畝(3万坪)を「薬草栽培研究に役立てて」と長野県へ寄付の申し出、県の施設として薬草園がひらかれた。らいてうさんの生地と同じ麹町の女性の篤志だったところに不思議な縁が感じられる。以来開墾、管理者設立、薬草栽培研究を始めた。

信濃の自然環境 地形的に山あり谷ありで、四

季の気温も変化多いため植物の種類が多く、成分的にも品質が優れている。

植物の種類―約4000種、静岡に次ぎ全国2位。生活圏内―約600種(約半数は薬草植物)。路傍―約300種。薬用植物―天然生育品―全国一種類多く、品質も優れている。栽培品―北海道に次ぎ全国2位。

【参考】

- 1 徳川家康は、天海僧正のアドバイスにより「天下の安泰を保つためには、疫病の蔓延を防ぎ住民が健康であること」をモットーとし医療対策に力を入れた。
- 2 そのため鎖国政策をとりながら、医療上必要な生薬は大阪堺港から輸入するのを黙認。
- 3 梅干の殺菌力に注目、住民の健康保持のため全国に梅の木を植えるよう奨励。徳川三家に率先して実行させた。(水戸―偕楽園、尾張―小梅が多い、紀州―梅干の産地)
- 4 強壯薬である「薬用人参」の栽培を奨励。種を各藩に配布した。



「自然の声を聴く」

岸田衿子さん、古矢一穂さんをお招きして



風でした。今年のらいてう講座第1回の日です。

岸田衿子さんはどんな方かと楽しみにしていました。美しくやさしい声の魔女でした。姿も語りつむぐことばも魔法の世界から語りかけてくるような。

講演形式ではなく、米田館長や参加者の問いかけに応じて、北軽井沢の自然や四季、ご自分の本のことなど話してくださいました。また、パートナーのひげもじゃの画家、古矢一穂さんも「花も木も虫も枯れ草も、どんなものでも絵になりますよ」と、ひょうひょうとしたお話。気持ちのいい自然との対話のような会でした。
なごやかなひと時をすごしティータイムのころ、突然サクソフォ



5月27日(日)、さわやかな風といっしょに黄砂もふいてくる日

でしたが、「家」の周辺は落葉松や白樺の新鮮を感じさせてくれる

ン奏者の中川美保さんが来館されました。私たちの無理なお願いに、数曲演奏してください。とても豊かな気持ちになれた午後でした。(井上)

これからのイベント案内

- 7月14日(土) 午後1時 第2回森のめぐみ講座 (葉草園ログハウス)
 - 7月15日(日) 午前8時 あずまや高原の山野草と野鳥たち
 - 8月4日(土) 午後1時半 夏休みパネルシアター (葉草園ログハウス)
 - 8月11日(土) 午後6時よりステンドグラスライトアップと一品持ちより交流会(家・ホール)
 - 8月19日(日) 午後1時 らいてう講座 米田佐代子館長「宮沢賢治とらいてうの世界」(終了後自由懇談会)(家・ホール)
 - 9月2日(日) 午後1時 らいてう講座 小沼通二さん「湯川秀樹とともに」(家・ホール)
 - 9月22日(土) 午前10時 お茶会(家・和室)
 - 9月22日(土) 午後1時 らいてう講座 宮島満里子さん「紫式部からのメッセージ」(1)(家・ホール)
 - 10月7日(日) 午後1時 らいてう講座 宮島満里子さん「紫式部からのメッセージ」(2)(家・ホール)
 - 10月14日(日) 午前11時 第3回森のめぐみ講座 (葉草園ログハウス)
- (問い合わせ) 03-34401-6383 らいてうの会 または 0268-74-1385 らいてうの家

らいてうの家建設募金 決算報告

<p>〈収入〉</p> <p>建設募金(2004年2月~2007年3月) 52,249,687</p> <p>1998年記念碑建設募金残金 958,165</p> <p>小計 53,207,852</p> <p>借入金 8,000,000</p> <p>合計 61,207,852</p>	<p>〈支出〉</p> <p>建築費(宮下組、第三木材、信州樵工房、信州丸子電気他) 31,789,627</p> <p>建築諸経費(設計・管理料、コーディネーター報酬、測量等) 4,905,812</p> <p>交通・通信・オープンセレモニー等経費 4,419,772</p> <p>備品(家具、展示用経費を含む) 6,185,703</p> <p>小計 47,300,914</p> <p>借入金返済 8,000,000</p> <p>合計 55,300,914</p>
<p>*差し引き残額 5,906,938円を「らいてうの家基金」として積み立てる</p>	

「らいてうの家」特別展
『青鞥』にかかわった上田出身の二人

『青鞥』にかかわった長野県出身者は現在分かっているところで7名いますが、上田市出身の2人を紹介します。調べていく中で新しい発見がありました。台湾高雄市政府文化局のホームページに富島巴子の名前があること、また上田保母伝習所時代の世良田優子の写真があることなどです。

龍野ともえ(富島巴)(1884~1937)

長野県小県郡東塩田村出身、日本女子大学を1906年に卒業。富島元治と結婚し、台湾に渡る。



中央がともえと長女

1920年、夫が高雄州知事のと看、ともえは高雄婦人会を創立。会費、寄付、空き瓶の回収等により2階建て57坪のレンガ造り婦人会館を建設した。「知徳修養の講演、家事技芸の講習」、又貧民の診療等も行うこととした。1923年、婦人会館と付属する財産すべてを愛国婦人会に寄付し帰国、その後京都に住む。婦人会館は現在、高雄市文化資産「原愛国婦人会館(紅十字育幼中心)市定古蹟」となっている。

ともえは『青鞥』の社員であったが残念ながら作品はない。

世良田優子(1889~1923)

本名は勇、父世良田常三郎は上田藩の郡奉行であった。一家はクリスチャン、優子も幼時に洗礼を受ける。父は小学校の教員で転任が多く祖母に育てられ、上田小学校、県立上田高等女学校、そして梅花幼稚園付設の上田保母伝習所を1910年に卒業した。

1911年、弟の進学にあわせ一家で上京、小石川幼稚園で保母として働く。当時の雑誌『女の世界』に「目下下流社会の子供を完全なる幼稚園にて教育すべく尽力中」とある。

1919年、長野県坂城町出身の中沢理と結婚、夫と製茶業を営むが胃がんのため若くして生涯を終える。女学校時代から短歌、小説等を『女子文壇』『女の世界』に発表、同郷の太田水穂が主宰する短歌結社『潮音』に参加。『青鞥』には短歌が掲載されている。(杉山・井上)



上田保母伝習所時代の優子(右から2人目)

〔事務局日誌〕

- 4月11日 06年度会計の監査を受ける
- 4月13日 米田会長が薬草園の牧さんと懇談
- 4月14日 第8回通常総会開催 於全国教育文化会館
- 4月16日 記録映画を上映する会理事会に出席
- 4月16~18日 らいてうの家掃除、展示準備
- 4月28日 らいてうの家07年度オープン
- 5月9日 第1回常任理事会
- 5月12日 第1回森のめぐみ講座 薬草園山桜花見
- 5月13日 07年度植樹 らいてうの森

らいてうの家現地運営委員会

5月15日 7月29日辻井喬講演会・らいてうの家訪問バスツアーの相談 エルネット トラベル

5月21日 薬草園開きに米田会長ほか出席

5月27日 第5回らいてう講座 講師岸田裕子さん

サクソフォン奏者中川美保さん来館

5月28日 らいてうの家通信、辻井講演会関係資料発送

6月14日 記録映画を上映する会の総会に出席

6月16日 あずまや高原自治会の総会に出席

6月17日 第6回らいてう講座 講師米田館長

6月18日 辻井喬講演会実行委員会 於真田

記録映画「平塚らいてうの生涯」のビデオができました。定価8000円 送料500円 申し込みは当会へ (TEL/FAX 03-3401-6383)

7月29日、辻井講演会への東京からのバスツアーは、若干空席があります。申込みは至急事務局へ